

令和8年6月24日

事業報告

講座名	山口ひとものがたりセミナー第1回（祝！ユネスコ世界ジオパーク認定「白」「黒」「赤」でたどる Mine 秋吉台ジオパークの大地の物語と人々の暮らし） （講師：Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会 事務局専門員 小原 北士氏）
日時・場所	令和8年6月20日（土）10：30～12：00 研修室101
参加者数	74名

1 概要

講師：小原 北士 氏（Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会 事務局専門員）

演題：「Mine 秋吉台ジオパークの何が世界に認められた？－「白」の石灰岩と「黒」の石炭、それぞれの科学的な価値と利用の歴史－」

小原氏は、大学、大学院で地質学を専攻し、美祢市をはじめとする中国地方各地の石や地層について研究されていた。そして現在は、美祢市役所に勤務し、Mine 秋吉台ジオパークの地質専門員として、出前授業や、博物館・資料館の展示などで、大地と人々のつながりのおもしろさを伝えている。

今回は何億年も前の地球の活動から始まった、「白」「黒」「赤」にそれぞれ象徴される美祢市の物語のうちの、特に「白」と「黒」について教えていただいた。

まずは「白」について、秋吉台の石灰岩がどのように出現したか、Mine 秋吉台ジオパークの何がオンリーワンとしてユネスコ世界ジオパークに認められたかなどについて教えていただいた。その他、世界のカルスト地形との違いや、秋吉台が明治時代から観光や陸軍演習等に利用されてきたことなどについても教えていただいた。

次に「黒」の石炭についてのお話を伺った。まずは美祢の石炭は、マグマの熱の影響を受けた無煙炭で、家庭用の燃料や、軍艦の燃料として重宝されていたということを伺った。また、その当時の大嶺炭田などでの採炭についてや、それによる街の発展の様子などについても教えていただいた。石炭を徳山の海軍練炭製造所まで運ぶために現在の美祢線が開通したことや、炭坑の社宅はカラーテレビの普及率が高く、生活水準が高かったことがわかるという話などは大変興味深かった。

たくさんの資料や写真を使った大変わかりやすい講演で、参加者からも、もっと聴いていたかった、時間があっという間に過ぎてしまったという声が多くあり、多くの参加者の方に満足いただけたようだった。

2 写真

